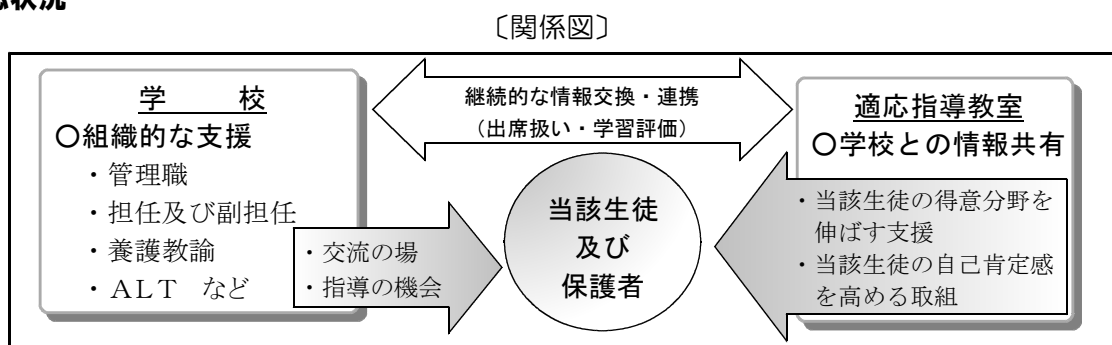


## 不登校児童生徒への対応事例 10 (中学校第 2 学年女子) ～学校復帰を目指した適応指導教室との行動連携による対応～

### 問題の把握

当該生徒は、第 2 学年の 4 月に学校で過呼吸を起こしたことをきっかけに、徐々に欠席するようになった。「学校や先生が嫌い、怖い」と学校や教員への抵抗を強く訴えていたため、学校との接点を少なくし、適応指導教室での支援を中心に対応した。2 学期以降、当該生徒の心が落ち着き、一部ではあるが教員との面談もできるようになった。

### 対応状況



#### 〔対応の経過〕

##### ○第 2 学年 1 学校前半

保護者の相談から  
適応指導教室への  
通級の開始

- ・当該生徒は、学校と教員に対する嫌悪感や不満とともに、他の生徒に対する恐怖心を抱いていた。
- ・当該生徒は、登校できない不安や学習の遅れなどの焦りから、大きなストレスを抱えており、時折、過呼吸を起こすなど、不安定な精神状態が続いていた。
- ・教育相談センターにおいて、当該生徒の母親と面談を重ねた結果、当該生徒を 7 月から適応指導教室に通級させることになった。

##### ○第 2 学年 1 学期後半

当該生徒の得意な  
分野を伸ばす支援  
と学校との関わり  
の維持

- ・適応指導教室は学校との情報交換を行うとともに、適応指導教室における指導内容について学校との打合せを行った。
- ・適応指導教室では、学校から提供された情報と打合せにより、当該生徒が得意である美術科の切り絵やペーパークラフトの製作に取り組ませた。製作した作品を学校祭の作品展に提示してもらうなど、学校との関わりを継続してもてるようにした。
- ・当該生徒が意欲を示した実用英語検定の 3 級受検に向け、学校の ALT の指導を受ける機会を設け、当該生徒の自己肯定感を高める取組を進めた。

##### ○第 2 学年 2 学期

適応指導教室を活用した他の生徒や  
教員と交流する機会  
の設定

- ・適応指導教室での学習活動の一部については、美術や英語の学習として指導要録上出席扱いとし、学習評価の資料として活用した。
- ・学校で実施する職場体験活動に参加する意思を示したことから、教員と一緒に参加する生徒と適応指導教室でオリエンテーションや打合せを行った。
- ・当該生徒は他の生徒との交流を通して、学校で期末テストを受けることや三者面談を行うことに意欲を示し始めた。
- ・学校と適応指導教室が家庭と連携を図り、一貫した支援を継続して行ったことにより、当該生徒は自分を認めてくれることを感じ自信をもって生活することができるようになった。

### 不登校の問題に対応するためのポイント

- ・学校と適応指導教室の連携を密にし、児童生徒の状況に応じた適切な支援を行うこと。
- ・児童生徒の状況に応じて、様々な学習の機会の提供したり、学校行事への参加を促したりするなど、児童生徒の自己肯定感を高める取組を組織的、継続的に行うこと。